

〔代替薬剤等の効率的防除技術の開発〕

防虫網によるワサビの害虫管理

竹内浩二・竹内 純・渡辺 建司*

(安全環境科・*西多摩農業改良普及センター)

【要 約】 奥多摩地域のワサビ栽培において、現在特に問題となっているヘリジロカラスニセノメイガとカブラハバチなどに対して防虫網の設置は高い防除効果があった。

【目 的】

奥多摩地域のワサビ栽培においては普及センターとともに生産現場での病虫害の発生状況調査を行ってきた。特に、ヘリジロカラスニセノメイガとカブラハバチについては生産上の重要な障害となっている。これらの害虫には有効な登録薬剤がないために物理的な防除法などの対策を講じることが必要である。本試験では1mm目合いの防虫網を設置して、その害虫防除効果などを明らかにする。

【方 法】

奥多摩町のワサビ生産者圃場（沢）、2箇所において防虫網（ニューサンサンネットEX2000；目合い1mm）を使用し、遮光資材展張用の既設ワイヤーなどを利用して試験圃1では箱形（6月18日設置、7月3日定植、防虫網区幅5m×長さ12m×高さ2.5m）に、試験圃2ではトンネル型（8月1日設置、8月7日定植、防虫網区幅2.5m×長さ11.5m×高さ0.6～0.8m）に隙間のないように設置した。それぞれ、防虫網を設置しない対照区とともに定期的に害虫等の調査を行った（表1）。

【成果の概要】

- 1) スジグロシロチョウとヘリジロカラスニセノメイガに対する効果（表1, 2）：両種とも調査期間中、防虫網を設置した内部での発生がみられなかった。特に圃場2においては、10～11月にかけてヘリジロカラスニセノメイガが多発し、無処理区での被害は地上部がほとんどなくなるなど甚大であった。
- 2) カブラハバチに対する効果（表3）：発生は多くなかったが、防虫網設置区では発生がみられず、防除効果は高いと考えられた。
- 3) モモアカアブラムシに対する効果（表4）：圃場2では11～12月に発生が多くなり、12月には防虫網区でもわずかに発生がみられた。
- 4) 以上のことから、都内のワサビ生産で問題となる主要害虫に関して1.0mm目合いの防虫網の圃場への展張は高い防除効果を示した。特に、定植1年目の幼苗の茎葉部への食害被害は初期生育に著しい影響を与えると考えられ、生育初期の防虫網による害虫防除は有効である。防虫網の展張方法は様々な圃場形状に合わせて、個々に工夫する必要があるが、夏期に寒冷紗を掛けるためのワイヤーなどが既設されている圃場ではそれらを利用することで簡易に設置できる場合もある。なお、防虫網は冬期（12～4月）の間は積雪の影響を受けないよう天頂部を開け、端に寄せてたたんでおくなどの管理が必要である。

表1 ヘリジロカラスニセノメイガ幼虫の発生状況(20葉の寄生数)

	圃場1 ^{a)}		圃場2 ^{b)}	
	無処理区	防虫網区	無処理区	防虫網区
2007年8月1日	0	0	-	-
9月10日	6	0	9	0
10月11日	4	0	21	0
11月20日	6	0	16	0
12月4日	2	0	4	0

a):2007年7月3日定植

b):2007年8月7日定植

表2 スジグロシロチョウ幼虫(アオムシ)の発生状況(20葉の寄生数)

	圃場1 ^{a)}		圃場2 ^{b)}	
	無処理区	防虫網区	無処理区	防虫網区
2007年8月1日	6	0	-	-
9月10日	2	0	0	0
10月11日	1	0	0	0
11月20日	0	0	0	0
12月4日	0	0	0	0

a):2007年7月3日定植

b):2007年8月7日定植

表3 カブラハバチ幼虫の発生状況(20葉の寄生数)

	圃場1 ^{a)}		圃場2 ^{b)}	
	無処理区	防虫網区	無処理区	防虫網区
2007年8月1日	8	0	-	-
9月10日	8	0	2	0
10月11日	2	0	0	0
11月20日	0	0	0	0
12月4日	0	0	0	0

a):2007年7月3日定植

b):2007年8月7日定植

表4 モモアカアブラムシの発生状況(20葉の成幼虫寄生数)

	圃場1 ^{a)}		圃場2 ^{b)}	
	無処理区	防虫網区	無処理区	防虫網区
2007年8月1日	6	0	-	-
9月10日	4	0	0	0
10月11日	8	0	2	0
11月20日	0	0	16	0
12月4日	0	0	44	2

a):2007年7月3日定植

b):2007年8月7日定植